

【 概 要 編 】

目 次

「馬天港みなとまちづくり」形成のための基礎調査

概要編

第1章 対象地域の現況

1 . 対象地域の位置	1
2 . 南城市の概要	1
3 . 面積と人口	1
4 . 産業	2
5 . 自然環境	2
6 . 観光	2
7 . 港湾利用状況	3
8 . 馬天港背後圏の状況	4

第2章 対象地域の上位計画における位置付け

1 . 「地域産業資源活用事業の促進に関する基本的な構想」	4
2 . 「沖縄観光振興基本計画」	4

第3章 観光客、来港客のニーズの把握

1 . 地域のニーズ	5
2 . 観光客のニーズ	5

第4章 地域の課題と目標の設定

第5章 新しい観光形態の仕組みの検討

第6章 交流型体験プログラムの試行実験

第7章 試行実験の評価

1 . 参加者の構成	8
2 . 体験プログラムの評価	8
3 . イベント会場の評価	8
4 . 今後の展望	8

第8章 実効性のある観光振興産業の提案

第9章 環境施策の環境面に配慮した持続性の評価

第 1 章 対象地域の現況

1.1 対象地域の位置

本調査の対象地域は馬天港を中心とした地域である。対象地域は、沖縄県南東部に位置している。また、中城湾の奥に位置しており、比較的穏やかな海域を持つ地域である。



写真：沖縄県ホームページより

1.2 南城市の概要

南城市は、平成 18 年 1 月 1 日、佐敷町・知念村・玉城村・大里村の 1 町 3 村が合併し出来た新しい市であり、那覇都市圏に隣接した地域である。

1.3 面積と人口

東部は静穏な中城湾に、南部は太平洋に面し、東西 18 km、南北 8 km に広がる。

面積： 49.70 k m²

人口： 40,548 人（平成 19 年 3 月末現在）

世帯数： 13,414 世帯

急速に進む高齢化：佐敷町 H 1 2 年 H 1 7 年 3 . 3 % 増加

1.4 産業

地域の産業構造は、第3次産業が中心であるが、第1次産業の比率も比較的高い。近年、建設業が衰退する中、2次産業は建設業が中心であり、今後は、建設産業に変わる地域の産業を育てていかねばならない。

1.5 自然環境

亜熱帯海洋性気候であり、沿岸域として過ごしやすい地域である。また、中城湾内という条件のため、海域は、穏やかで様々なマリンスポーツの適地である。

1.6 観光

(1) 沖縄の文化と心のふる里

南城市は、神の島久高島、世界遺産である「斎場御嶽(せーふぁうたき)」をはじめ深い歴史を刻んだ多くの「グスク」、東御廻りの文化遺産など貴重な歴史・文化史跡及び多くの伝統的な芸能、民俗が残されている。



せーふぁうたき

(2) 豊富な観光資源

美しい海岸景観や貴重なさんご礁の海を持つ臨海地域にはあざまサンサンビーチ、新原ビーチ、知念岬公園などが点在。また、シュガーホールや眺望に優れた洒落たカフェや喫茶店も多く、観光資源にも恵まれている。

(3) 「いやしと健康」のまちづくり

南城市では、「いやしと健康」をテーマに、体験滞在交流型の観光振興と健康づくり事業に取り組んでいる。

1.7 港湾の利用現況

馬天港は、現状では、漁船及びP B等の利用と作業船等の碇泊港として利用されており、利用船舶に関する正確な統計データは不明である。

過去には久高島等の離島航路の港湾として、また、東海岸の港湾工事等のために本島南部地域で算出された白石の積出港として機能した時代も有った。現在は、それらの利用もなく、ストックとして有効活用することが望まれている。

港湾の利用現況

現況の港湾利用は下図の通りである



1.8 馬天港背後圏の現況

馬天港背後圏は、商店等が点在する住宅地である。みなとと市民との係わりは、さほど密接でないと推察される。

第2章 対象地域の上位計画における位置づけ

2.1 「地域産業資源活用事業の促進に関する基本的な構想」

平成19年12月に発表された「地域産業資源活用事業の促進に関する基本的な構想」は、沖縄県の地域活性化のあり方の方向性を示すものである。この考え方は、地域資源を活用した地域産業のイノベーションと観光を結びつけるための観光まちづくりをリンクさせ、地域経済の活性化をはかるというものである。

中小企業主体の地域経済のイノベーション
産学の連携、地域資源の活用と活用を図る企業の支援

観光まちづくり
県のリーディング産業である観光及び観光関連産業

地域経済の
活性化

2.2 「沖縄観光振興基本計画」

「沖縄観光振興基本計画」(平成14年5月)は、平成23年を目標とした沖縄の観光振興について計画したものであり、南城市がある南部地域は次のように位置づけられている。

テーマ：「健康、長寿や歴史文化を活用した観光体験と農林水産業の拠点」

目標：体験・滞在型交流拠点の形成

第3章 観光客・来港者のニーズの把握

3.1 地域のニーズ

地元の人々からは、昔日の馬天港のみなとまちとしての賑わいと景観を取り戻し、地域の活性化を図ることが強く望まれている。

その内容は、

- ・まちの景観作り
- ・まちの産物の活用
- ・体験型の海のプログラム
- ・遊覧船等の運航

等多彩である。

3.2 観光客のニーズ

本島南部地域の観光客は、戦跡訪問を含めた周遊観光地域が中心である。しかし、最近の観光客の動向は、

- ・従来のパック旅行でもフリープラン型のように個人にあわせた旅行スタイル
- ・「見る」観光から、「参加・体験」する観光
- ・エコツーリズム、グリーンツーリズム等の新しい旅行スタイル
- ・世界遺産ツアーや健康増進旅行等の目的を特定した旅行

となっており、多様なプログラムの展開と同時に地域の観光地域としての質の向上が求められている。

第4章 地域の課題と目標の設定

地域の課題：観光産業の展開を可能とする“みなとまち”の再生

- ・地域の新たな産業として観光産業及び観光関連産業を興し、地域の産業構造の転換を図る。
- ・1次産業と結び付いた3次産業（観光産業）の展開
- ・多くの来訪者を呼び込むまちの景観とサービス（体験型プログラム）の提供
第一段階

地元の人々の交流を中心に、定期的な「みなとまつり」等のイベントの開催

第二段階

目標設定：30人の雇用創出（第一段階のみなとまちづくりの目標）

第5章 新しい観光形態の仕組みの検討

馬天港は、地域の産業拠点として、また離島航路港湾としての歴史を持つ港湾である。現在でも、漁業や石材の積出港、作業船基地として利用されている。しかし、港湾としての昔日の賑わいはない。したがって、馬天港において新しい観光形態を考へるとき、その基本は

“ 持てる港湾のストックを活かし、交流体験型観光の仕組みを創造する。 ”

ことが必定である。“馬天港”を拠点とする観光産業を育成し、併せて、みなとを中心としたまちづくりを進めることにより、みなとに、往年の賑わいを取り戻すことが、地域の大きなテーマとなっており、そのためのテーマづくり、道づくり、空間づくりが提案される。

第6章 交流型体験プログラムの試行実験

平成19年12月9日(日)9時～17時に南城市馬天港及びその周辺地域で、表6・1のプログラムを開催した。当日は晴天に恵まれ、市内外から多くの人々が集まり、一日だけではあるが、馬天港にかつての賑わいを取り戻すきっかけづくりとなった。

交流型体験プログラムについて、地域住民、県民、観光客を対象とした試行実験を行い、実験中に、参加者を対象にアンケートを実施した。アンケート調査は、地域住民の参加の可能性、住民生活への影響などについて実施した。

交流型体験イベント	シーカヤック	陸上で基本操作の練習後、海上散策。 心地よい潮風に吹かれながら、自然と一体になり海上散策といった感覚を味わえる。
	サイクリング	環境と人にやさしい自転車を活用し、馬天港から仲伊保港までの道のり。途中、自然豊かな浜ジンチョウ公園で自然観察を行う。
	ノルディックウォーキング	サイクリング同様、馬天港から仲伊保港までの道のりを歩いて自然を満喫。途中、浜ジンチョウ公園で自然観察を行う。
	自然観察	浜ジンチョウ公園で、鹿谷夫妻による自然教室。公園周辺のマングローブや自然の豊かさを学ぶ。
	遊覧船	遊覧船に乗って、海から眺める馬天港や海の自然を満喫。馬天港の新たな魅力を発見。
	釣り大会	馬天港周辺で獲れる海の恵みを実感。
	釣り体験	釣り初心者でも、安心して体験できる教室。
	手作り玩具教室	日本に古くから伝わる「手作り玩具」を玩具の達人から楽しく学ぶ。
交流イベント	ソデイカ解体ショー即売会	ソデイカ、マグロを来場者の前で解体し、即売。
	出店ブース	海産物料理などを販売。
	馬天港の写真展	馬天港が捕鯨基地だった頃の写真や当時の海岸線などの図面を展示。
	ステージショー	<ul style="list-style-type: none"> ・ 尚巴志太鼓 ・ 釣り大会表彰式 ・ 佐敷中学プラスバンド ・ SSバンド

第7章 試行実験の評価

7.1 参加者構成

回答者数 142人

	男性	女性	無回答	計
南城市	60	24	3	87
南城市以外	30	23	2	55
計	90	47	5	142

7.2 体験プログラムの評価

今回の体験プログラムは、下記の通り行った。

シーカヤック・サイクリング体験

釣り体験

ノルディックウォーキング体験

遊覧船体験



アンケート結果から全ての体験プログラムにおいて、「非常に良い」又は「良い」との回答が、85%超の数字を得られた。このことから、今回の体験プログラムは参加者から非常に好評で、今後も通年的に取り組む必要がある。

7.3 イベント会場の評価

イベント会場の評価は、下記の通り行った。

出店

ステージプログラム

各所施設

出店の数・品揃えに対し、満足度は40%以下と非常に低く、トイレ施設に対しても不満の声が多かった。一方、ステージプログラムは大変好評であった。今後アンケート結果をもとに、改善策の検討が必要である。

第8章 実効性ある観光振興施策の提案

(みなとまちづくりを意識した提案)

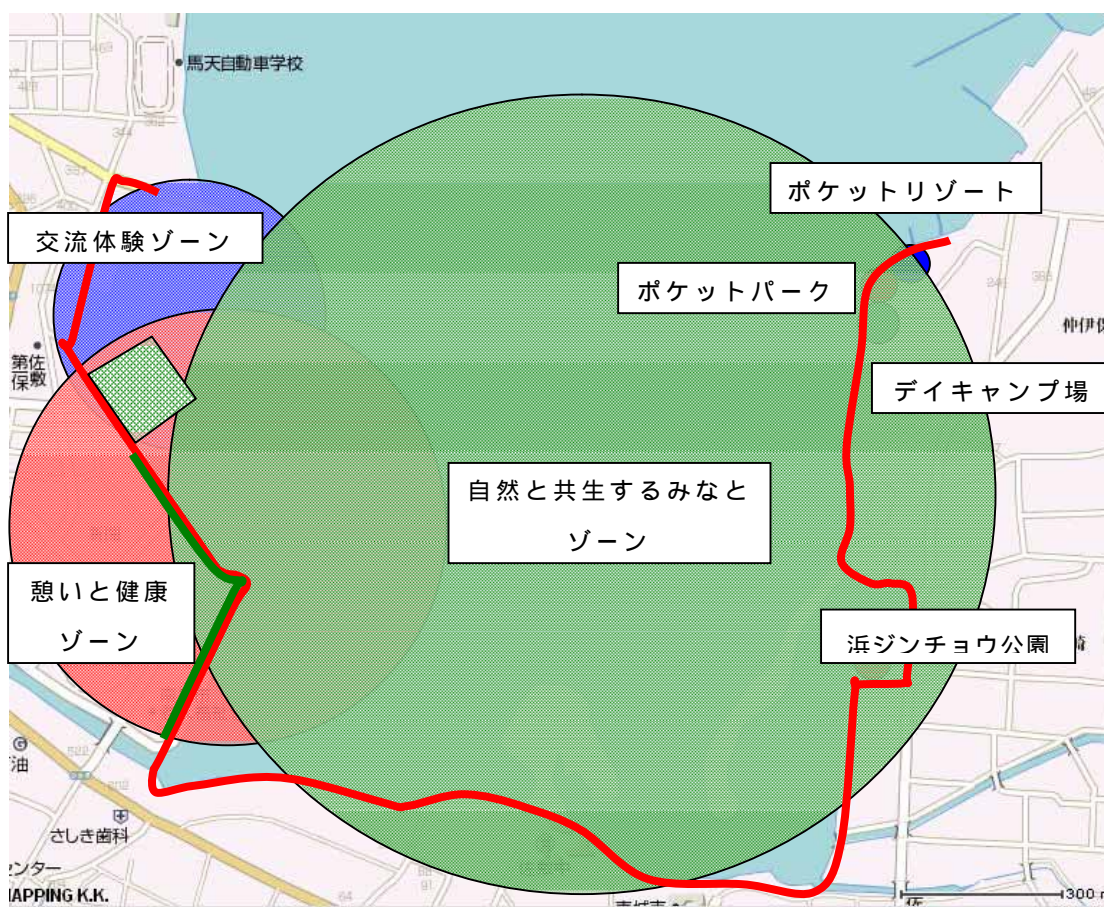
馬天港をストックと捉え、みなとまちづくり(みなとの再開発)による観光産業の展開を推進するためには

みなとにウォーターフロント施設を整備

自然と共生するみなとまちづくり

交流体験型プログラムの展開のための“海のクラブ”の運営

一般に港湾施設等の公共財産を活用する場合には、様々な制約がある。しかし、みなとの活性化に取り組むためには、これらの規制を地元の人々の熱意と積極性を持って、変革していくことが必要である。



第9章 提案施策の環境面に配慮した持続性の評価

経済活動の進展に伴い複雑多様化する現代社会において、21世紀が環境の時代といわれる中で、あらゆる場面において環境負荷の軽減が求められている。

提案した施策は

(1) 環境負荷の少ない住みよいまちづくり

(2) 自然と共生するまちづくり

という点に配慮したものであり、環境面において持続性を十分にもつものである。